津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑩①

ー夜間のこどものけいれんー

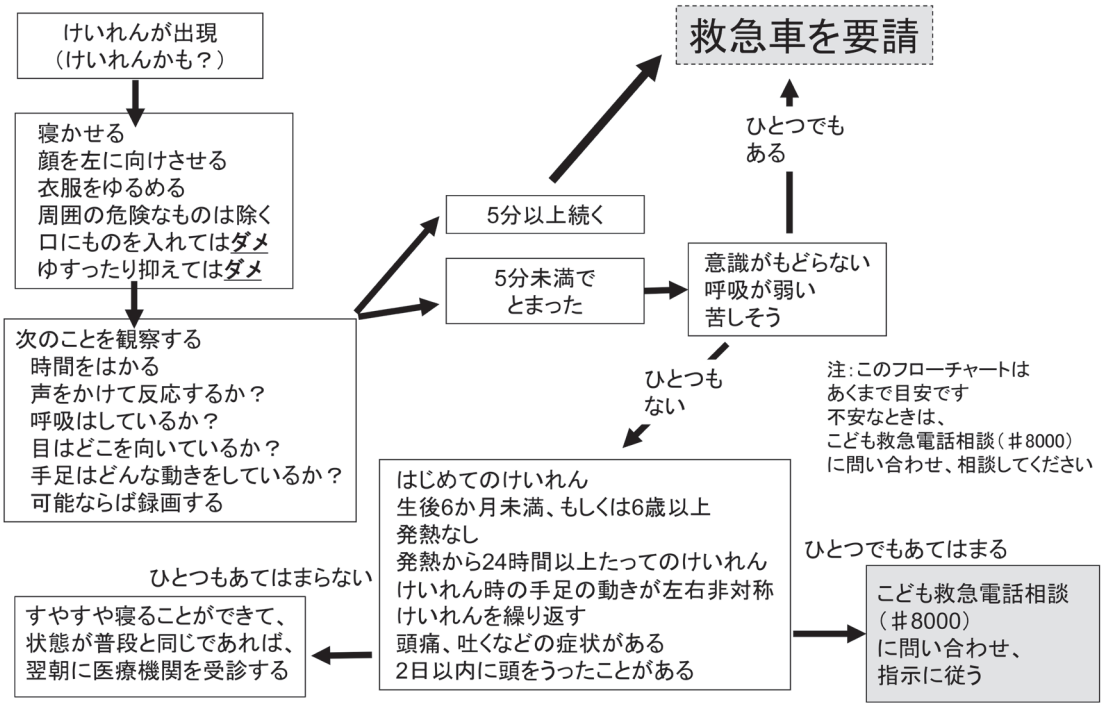
大分大学地域医療・小児科分野　是　松　聖　悟

こどものことで救急車を要請する頻度の高いのが「けいれん」です。けいれんを経験する子どもは10人に1人程度いますので、決して珍しくはありません。ですから、小さなお子さんがいるご家庭では、こどもがけいれんした時の対処法を知っておく必要があります。夜間のこどものけいれんのフローチャートは2008年9月号に掲載しましたが、今回、8年ぶりに改訂しました。

けいれん(もしくはけいれんかも?)と思った場合は、子どもをその場に寝かせてください。吐いた場合に備えて、顔を左に向けさせ、衣服をゆるめてください。周囲の危険なものは除いてください。間違いやすいこととして、口にものを入れたり、ゆすったり抑えたりしてはいけません。舌を噛むより、窒息する可能性のほうが高いからです。

そして次のことを観察してください。①時間をはかる。②声をかけて反応するか?③呼吸はしているか?④目はどこを向いているか?⑤手足はどんな動きをしているか?そして可能ならば録画をしてください。ほとんどのけいれんは5分以内にとまります。5分以上続く場合は救急車を要請してください。5分以内でとまっても、①意識が戻らない、②呼吸が弱い、③苦しそうなどがあれば救急車を要請してください。

それらがない場合は、慌てる必要はありません。ただし、もう1つのチェック項目があります。それは、①はじめてのけいれん、②生後6か月未満、もしくは6歳以上のこども、③発熱がない、④けいれん時の手足の動きが左右非対称、⑤けいれんを繰り返す、⑥頭痛、吐くなどの症状がある、⑦2日以内に頭をうったことがある。これらがひとつでもあてはまる場合は、こども救急電話相談(#8000)に問い合わせ、チェックした内容を説明して指示に従ってください。

最後のチェック項目に、ひとつもあてはまるものがなく、すやすやと寝ることができて、状態が普段と同じであれば、翌朝に医療機関を受診して、チェックした内容を説明したり、動画をみせて、医師の指示を仰いでください。

夜間のこどものけいれん　フローチャート